

心ゆたかに

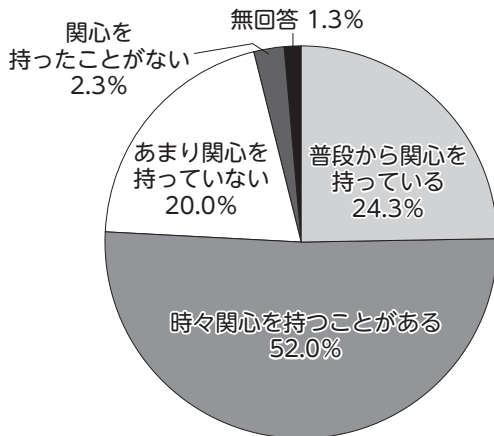
—部落差別をはじめあらゆる差別をなくするために—

2023年(令和5年)8月1日 米子市総合政策部人権政策課 TEL (0859) 23-5415 Eメール/jinkenseisaku@city.yonago.lg.jp

人権に関する市民アンケートの結果が出ました

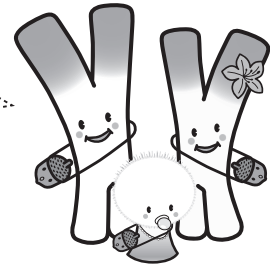
米子市では、昨年9月に市民のみなさんを対象として、人権に関する市民アンケート（人権問題市民意識調査）を実施し、さまざまな人権問題についての調査を行いました。今号では、紙面の都合上、結果の一部をご紹介します。

あなたは人権問題について、どの程度関心がありますか？



「普段から関心を持っている」「時々関心を持つことがある」と答えた人は76.3%でした。一方、「あまり関心を持っていない」「関心を持ったことがない」と答えた人は22.3%となっています。

約8割の人が、人権問題に関心があるという結果になりました。



*百分率(%)の計算は、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。

さまざまな人権課題について、どの程度関心がありますか？

①同和問題（部落差別）、②外国人、③障がい者、④男女共同参画、⑤子ども、⑥高齢者、⑦病気にかかわる人、⑧犯罪被害者、⑨性的マイノリティ、⑩生活困難者、⑪刑を終えて出所した人等、⑫インターネットによる人権侵害、⑬災害時の人権、⑭拉致被害者の14項目の中で、「関心がある」「少し関心がある」と答えた人の割合が高かった人権課題を、全体集計結果と年齢別集計結果から表にしました。

●全体（上位5番まで）

1	病気にかかわる人
2	障がい者
3	子ども
4	高齢者
5	インターネット

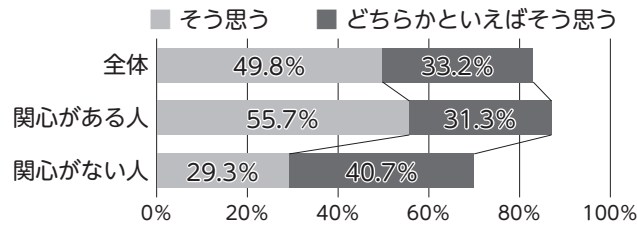
●年齢別（上位2番まで）

	1	2
15～19歳	障がい者／インターネット（同率）	
20～29歳	インターネット	障がい者
30～39歳	インターネット	病気にかかわる人
40～49歳	病気にかかわる人	子ども
50～59歳	病気にかかわる人	障がい者
60～69歳	障がい者	高齢者／病気にかかわる人（同率）
70～79歳	高齢者	子ども

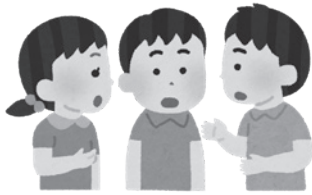
全体でも年齢別でも、「病気にかかわる人」への関心が高くなっています。これは、近年の新型コロナウイルス感染症の流行によるものだと思います。若年層では、「インターネットによる人権侵害」への関心が高くなっています。

次のような考え方についてどう思われますか？

同和問題（部落差別）について、差別や偏見に基づく間違っただけの情報に惑わされないためにも、正しい理解のための学習や啓発が必要だ



「関心がある人」と「関心がない人」では17.0ポイントの差となっています。特に、「そう思う」と答えた人だけを見ると、26.4ポイント差となっています。人権問題に関心がある人は、同和問題についての学習や啓発の必要性を認識している割合が高いという結果となりました。



「関心がある人」と「関心がない人」では23.5ポイントの差となっています。人権問題に関心がある人は、地域で暮らす外国人と、同じ地域で暮らす住民同士として理解し合おうという意識が高いことがうかがえます。

「関心がある人」と「関心がない人」では24.2ポイントの差となっています。人権問題に関心がある人は、性的マイノリティについての理解が深まっている人が多いことがうかがえます。

この他、「ハラスメント」、「外国人」、「刑を終えて出所した人」などを取り上げた設問項目で、行動することができると思うと答えた人の割合にポイントの差がありました。

人権問題に「関心がある人」と「関心がない人」で、アンケートの回答結果に違いが出た主な設問項目をみてみましょう。



関心がある人

「普段から関心を持っている」
「時々関心を持つことがある」

と答えた人

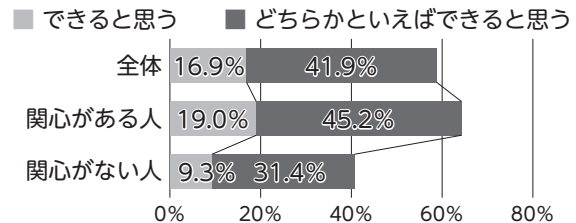
関心がない人

「関心を持ったことがない」
「あまり関心を持っていない」

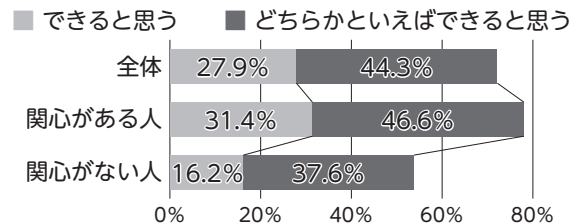
と答えた人

次のような行動をとることができると思いますか？

地域で暮らす外国人と積極的にコミュニケーションをとったり、お互いの文化を理解し合えるようにする

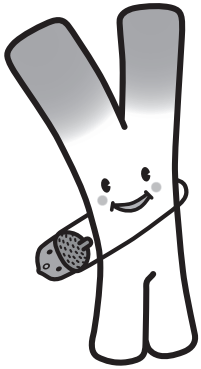


身近な人から性的マイノリティであると告白（カミングアウト）を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝える

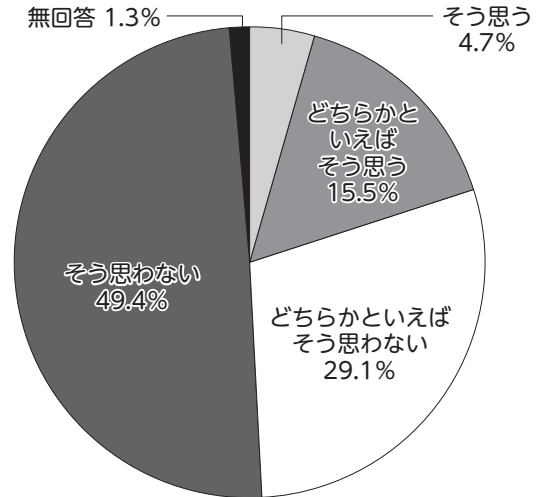


*カミングアウトを受けて、そのことを本人の同意を得ずに他の人へ教えること（アウトティング）はあってはならない行為です。アウトティングは、ときには命に関わる重大な問題であることを認識する必要があります。

自分は差別しないので人権問題を学ぶ必要はない



人権問題を「学ぶ必要があると思う人」と「学ぶ必要はないと思う人」で、アンケートの回答結果に違いが出た主な設問項目をみてみましょう。



学ぶ必要があると思う人

「そう思わない」
「どちらかといえばそう思わない」と答えた人

学ぶ必要はないと思う人

「そう思う」
「どちらかといえばそう思う」と答えた人

人権問題を学ぶ必要はないと思う人（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人）が、20.2%と、2割の人が「自分は差別しないので人権問題を学ぶ必要はない」と思っているという結果でした。

「学ぶ必要があると思う人」と「学ぶ必要はないと思う人」では22.7ポイントの差となっています。特に、「そう思う」と答えた人だけを見ると、27.2ポイント差となっています。人権問題を学ぶ必要があると思う人は、人権問題に関心がある人と同様に、同和問題についての学習や啓発の必要性を認識している割合が高いという結果となりました。

「学ぶ必要があると思う人」と「学ぶ必要はないと思う人」では13.1ポイントの差となっています。

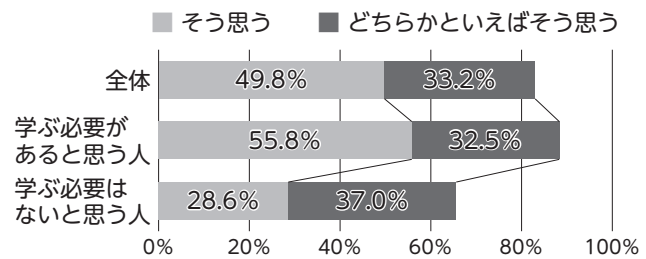
人権問題を学ぶ必要があると思う人は、同和問題について正しい理解が進んでいることがうかがえます。

同和地区の人への結婚差別はいまだに全国で報告されています。

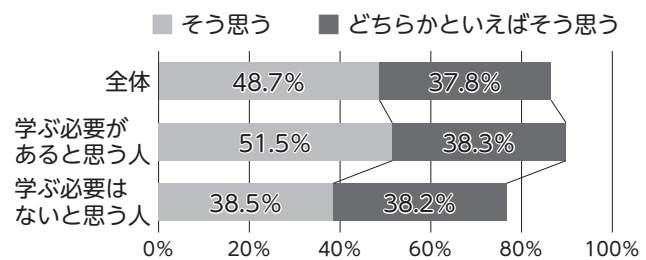
今後も、差別の解消のために、正しい知識を学ぶことが必要だといえます。

次のような考え方についてどう思われますか？

同和問題（部落差別）について、差別や偏見に基づく間違った情報に惑わされないためにも、正しい理解のための学習や啓発が必要だ



自分の身内に同和地区の人との結婚話があったときには、本人の意思を尊重し結婚を祝福する





前のページに続いて、人権問題を「学ぶ必要があると思う人」と「学ぶ必要はないと思う人」との回答結果の違いをみていきます。

「学ぶ必要があると思う人」と「学ぶ必要はないと思う人」では、身元調査を「してはいけないと思う」と答えた人の割合が、社員の採用時で16.3ポイント差、結婚時で16.4ポイント差となっています。人権問題を学ぶ必要があると思う人は、学ぶ必要はないと思う人よりも身元調査をしてはいけないとの回答が多くなっていますが、割合は半数程度にとどまっています。

身元調査は、同和問題の結婚差別、土地差別につながるほか、外国人、障がい者などのさまざまな人権問題や、プライバシーの侵害にも関わってくる、非常に重大な問題のある行為です。

調査結果を受けて、今後も身元調査の不当性について正しく認識してもらうため、一層の啓発が必要だといえます。

今回のアンケート結果から、人権問題に関心を持っている人や、学ぶ必要があると思っている人は、人権問題を身近なこととして捉え、同和問題の学習の重要性を認識しているほか、性的マイノリティや外国人など、多様性を尊重しようと考えている人が多いことがうかがえました。

米子市では、人権尊重都市の実現に向け、今後も同和問題をはじめあらゆる人権問題の解決のための人権教育、人権施策を実施してまいります。

詳しいアンケート結果は、米子市人権情報センター、市のホームページでご確認いただけます。

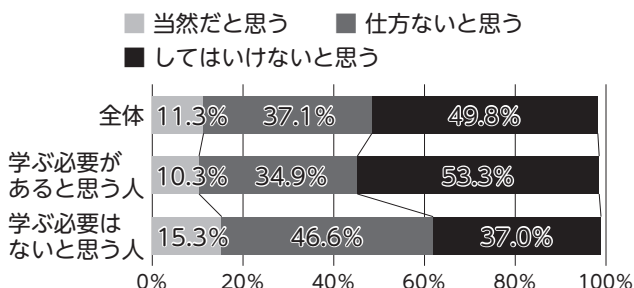
<https://www.city.yonago.lg.jp/40682.htm>



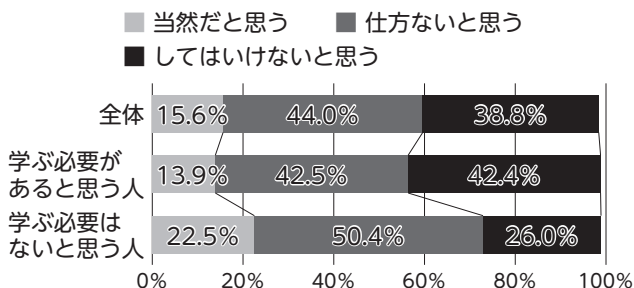
次のような場面で身元調査 (本籍地・出生地・居住地などをしらべる) をすることをどう思われますか？

*無回答を除く

企業が社員を採用するとき

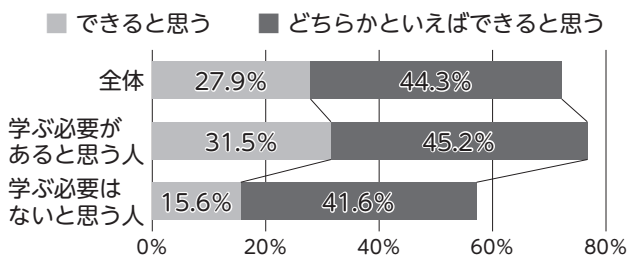


結婚するとき



次のような行動をとることができると思いますか？

身近な人から性的マイノリティであると告白（カムイングアウト）を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝える



「学ぶ必要があると思う人」と「学ぶ必要はないと思う人」では19.5ポイントの差となっています。人権問題を学ぶ必要があると思う人は、人権問題に関心がある人と同様に、性的マイノリティについての理解が深まっている人が多いことがうかがえます。